

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4491100071		
法人名	社会福祉法人明峰会		
事業所名	グループホームオハナ		
所在地	大分県宇佐市大字四日市4452-1		
自己評価作成日	平成23年12月26日	評価結果市町村受理日	平成24年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4491100071&amp;SCD=320&amp;PCD=44">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4491100071&amp;SCD=320&amp;PCD=44</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成24年1月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>自然に恵まれながらも住宅地に位置し、散歩には最適な環境である。小さな畑で野菜を育て、食を通して季節を感じることができる。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>山間の風情(桜・藤等)豊かな地域に在る平屋建て1ユニットのホームです。庭に菜園とテーブルが設けられ、職員と共に作業する様子やお茶をする利用者の姿が伺えます。利用者増員の経過の中で、暮らしを育ててきた、開設1年未満のホームです。個々の職員力の向上とチーム力を高める営み、利用者・家族との信頼関係を培うコミュニケーション力の充実に努める中で、地域に開かれたホームを目指しています。一人ひとりの思いの把握と実践、行事・レクリエーション(カラオケ・風船パレー等)に励む様子からも、個々の利用者の「尊重」を大切に、ホーム(家庭)の一員である利用者の、豊かな日々の生活を支援する姿勢が伺えます。今後の躍動的な営みに期待が持たれます。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念はなく法人理念を共有している	事業所としての理念はまだ作られてはいませんが、今のところ法人の理念をサービスのあり方として共有しています。	今後、事業所独自の理念を管理者、職員で地域密着型サービスとして何が大切かを考えて作り上げていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治区の行事に100%参加しており、行事に必要な備品を貸し出すなど協力姿勢に努めている。	利用者さんと一緒に、地域の盆踊り、秋祭り、もちつき大会などに参加したり、自治会に加入し、草刈りや掃除などにも積極的に参加し地域との交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	残念ながら未だこの域に達していません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施報告のみならず、事故報告等のマイナスに受け取られるような情報を公表し、実態を理解していただくよう努めている。また、他市町のGH同士の取り組みを市の会議参加者に伝え、課題提起もしている。	運営推進会議には、利用者さん、職員が普段生活しているリビングで行い、全員参加し、事業所からの報告だけでなく、民生委員さんや自治会長さんから積極的に情報や意見を言ってもらい今後のサービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開園初年度の施設のため、必要書類や記録など直接教えいただくことも多々あった。今も疑問に思う点は率直に尋ねるようにしている。	疑問点や、事務的なアドバイスはその都度相談し、意見をもらっています。	ケアのあり方や、困難事例の相談など、今後はさらに密に交流されることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	表玄関については、施錠をしないため、数々の失敗を経て、ようやく無断外出の無い見守りが機能してきた。裏出入口は、入居者家族の理解の下に施錠せざるをえない状況である。	職員同士での声かけや申し送りノートで共有できるよう取り組んでいます。	さらに研修や、ミーティングなどで話し合う機会をもち、安全に自由な暮らしを支えて行けることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めてはいるが、職員の経験不足から適切でない言葉を使うことがある為、その点は注意したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部職員は理解しているが、全職員に対する研修がそこまで進んでいないため、今後の課題とする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情サービス委員会の案内を掲示したりご意見箱を設置している。また、精算業務を行っている同法人の他施設管理者と利用料お支払い時に会話する機会があり、気軽に疑問点などをお話しいただいている。	敬老会、クリスマス会、雑祭りなどに家族の方に参加してもらい、意見や要望を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議時程度に留まっている。	日頃から意見や希望が言いやすい状況であり、職員同士のチームワークもよく、意見の食い違いなどがあっても、ミーティングで方針を統一しケアに活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足により、就業環境の整備まで行き届いていない。職員の勤務状況については、管理者より報告をさせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に法人外の研修に努めて受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇佐市ではこのようなネットワークが形成されておらず今後の課題である。外部研修を通して県下の他施設との交流に取り組むたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にアセスメントで利用者と家族と共に、利用者の生い立ちから現在に至るまでを聞き取り、その上でご本人を深く理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のアセスメントで家族に時間を取っていただき、生い立ちから詳しく聞き取り、在宅生活での問題点、利用者への思い、ご家族の望むことなど時間をかけて話す。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のアセスメントにじっくり時間をかけることで実施できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況により差異がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議への参加して頂いたり、施設行事に家族会を開催するなどしている。また、誕生日を迎える利用者が家族と地元で昼食ができるよう企画し、職員も同行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在のところ、それら関係の深い方々のほうから訪ねてきてくれている。	法人内のケアハウスからの利用者さんが多く、遊びに来てくれたり、訪問しあえています。また誕生日には家族の方と自宅近くのレストランに食事に出かけるなど支援が出来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1ユニットのため把握しやすく、人間関係が上手く進むよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らず、力になれることは喜んでする気持ちでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望は理解できるが、帰宅願望など本人本位にできないケースも多々ある。	アセスメントや家族の方にもアプローチし、生活歴から本人の思いや希望を把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のカンファレンスで得た情報を職員に伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員により把握の度合いがまちまちである。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している。	月に1度のモニタリングを行い、家族さんの話を聞き、職員と意見交換を行い、計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の見直しが必要ではあるが、一応出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員配置の不足により、職員都合による柔軟な対応になりがちである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔懐かしい東西別院を含む四日市商店街の行事に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施できている。	利用者や家族の希望に添った医療機関への受診が施されています。協力医院の往診や訪問歯科の診察を受ける中で、結果は職員で共有し、家族への報告も行なわれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理については准看護師の資格を有する者が担当していたが、家族の介護で退職し、後任者を1月から採用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室担当者と連絡を密に取るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だ方針を検討中である。	入所初期に、重度化や終末期ケアへの取り組み(法人内の有料ホームを紹介)について、利用者・家族への説明が行われています。	「今を大切に生きる中、延長である看取り」について、現施設状況の把握と、終末期における必要不可能な支援、協力医療機関との連携、職員のチーム介護への意思確認等、全職員で協議を重ねることが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的には実施できていないため、全職員の実践力は確信できないが、実際に心不全を発症した利用者に適切な処置ができた事例はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を定期的には実施している。地域住民の協力体制は今後の訓練の中で築いていきたい。	管理者は、災害時における危機感を認識しており、職員と共に前進的に避難訓練に取り組む姿勢が伺えます。法人の総合避難訓練への参加により、災害時の介護技術の上達に努めています。	職員のチームワークを基盤とする、実践に活かせる研修(協議)の充実と体制作り、さらに、実地訓練時の職員の積極的な取り組みと避難技術の取得向上、地域との連携づくりに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施できている。	個人の尊厳への配慮として、声かけは名前に「さん」付けを基本とし、職員間での共有が図られています。プライバシーについて、「秘密保持」の規約が運営規定に表記され、研修（採用時）が行なわれています。	今後の取組みとして、継続的な研修（外部・内部）の実施が必要と思われます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけずとも自然に表現できる方が多いようだ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の配置不足から、一概に実施できていると言えない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実施できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特定の利用者は家事に参加してくれている。	朝食と、昼食・夕食の汁物とご飯はホームで調理しており、昼食・夕食は給食（法人内施設）を用い、栄養士によるアンケート（年4回）を実施しています。盛り付けやテーブル拭き等の手伝いをする利用者もいます。行事食も行なわれています。	職員はお弁当を持参し、利用者と共に食卓を囲む中で、楽しめる雰囲気づくりに努める様子が伺えます。ホームで調理した汁物や給食の、味や量の把握（検食等）が望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残し、確実に実施できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	先ずご本人にお任せし、足りない部分を職員が支援するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	無理強いしない程度の声かけに努め、全員が夜間もトイレにて排尿または尿取りパッドの取替えを実施している。	一人ひとりの排泄パターンや本人の行動のサインの気付きに努める中で、自主性を大切に、負担を与えない誘導・支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るのではなく、軽い運動や水分補給で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	どなたも週3回程度だが、職員や行事の都合で時間が変更するケースもある。	週3回の午後～を基本帯としながら、利用者の状況を配慮した支援(毎日可能等)を心がけています。一緒に着替えの準備をする等、楽しく入浴できる雰囲気作りにも取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安定剤を服用する方、しない方、深夜に起きてくる方それぞれの生活パターンを受け入れ、眠っている方の妨げにならないよう細心の注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理が苦手な職員が居るため、教育中である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしゃれな方、歌が好きな方、お酒の好きな方、職員の管理または支援の下楽まれています。役割は、利用者により偏ってしまうのが実情である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機会があれば外出するが、今は寒さが厳しい為少々控え気味である。	一人ひとりの利用者の思い(帰宅願望等)の配慮に努めており、散歩や外掃除・施設への給食受け取り、実家訪問等に取り組んでいます。集団でのドライブ(行事・地域のイベント)や買い物等も行なわれています。家族との外出も支援しています。	紅葉狩りや風土記の丘等へのドライブ、地域交流(商店街イベント等)により、気分転換(楽しみ)に取り組んでいます。個々の思いを見つめ、職員間の気付きとアイデアを発揮する中でより積極的な、日常的な支援に励まれることに期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	5000円程度の現金を預かり、外出行事の際には各自に1000円ずつ持参していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望すれば支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地良くしているつもりが、利用者の自宅とはイメージがかけ離れているようにも感じる。	明るいリビングには利用者との共同作品が飾られ、ゆったりとした雰囲気共同空間で、個々の利用者が和やかに過ごせる環境作り(ソファ配置への気配り等)に取り組んでいます。テラス茶会や菜園づくりも行なわれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンホールのリビングダイニングの為一人になれるのは居室となる。リビングのソファか食卓か座った場所により気のあった者同士で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お勧めはしているが施設が新しいためか未だ遠慮がちに写真など飾られている。	利用者が心地よく、安全に過ごせる居室づくりへの支援が伺えます。	入所時の声かけを通して、生活暦の把握の様子が伺えます。一人ひとりの利用者や家族の思いが見えてくるような居室づくりへの取り組みとして、職員間での積極的な協議に期待が持たれます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンホールのリビングダイニングで台所での家事もテレビを観るリラックスタイムも利用者の状況が確認しやすい。またリビングから物干しのある屋外に出やすく、畑仕事や日向ぼっこなどできる。		